

## 第7回 科学隣接領域研究会（2018.01.17）

### 科学と倫理 –その4–

#### 「STAP 細胞事件」

#### 現場からの声「研究者の倫理についてどう考えるか」



## 第7回科学隣接領域研究会について

日時：2018年1月17日（水）10：00～12：30

場所：日本財団ビル第1.2会議室（東京都港区赤坂1-2-2 2階）

### 参加者（敬称略）

科学隣接領域研究会	リーダー	金子 務（大阪府立大学 名誉教授）
	サブリーダー	酒井 邦嘉（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
	メンバー	安藤 礼二（多摩美術大学美術学部 教授）
	〃	植木 雅俊（NHK文化センター 講師）
	〃	岡本 拓司（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）
	〃	正木 晃（慶應義塾大学文学部 非常勤講師）
	〃	廣野 喜幸（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
特別講師		須田 桃子（毎日新聞科学環境部 記者）
笹川科学研究助成若手研究者（奨励賞受賞した直近3年の研究者より選抜）		4名
笹川科学研究助成制度に関わる先生		波田野 彰（元東京大学教授）
		梅干野 晃（東京工業大学 名誉教授）
		川口 春馬（神奈川大学工学部客員教授/慶應義塾大学 名誉教授）
事務局	会長	大島 美恵子
	常務理事	中村 健治、顧 文君
	業務部マネージャー	石倉 康弘
	〃サブマネージャー	宮内 貴子
	〃 スタッフ	豊田 悠也、堀籠 美枝子

### 資 料

- ・本日の流れ、講演者・若手研究者紹介、「科学者三原則」

### 内 容

- ◆大島会長のご挨拶
- ◆金子先生のご挨拶

特別講師の須田氏について、毎日新聞科学環境部の記者で、最近までアメリカに留学されていて、日本のみならず海外での研究環境をご存知であり、わが国最大の研究機関理化学研究所で起きた STAP 細胞事件では一連の報道をされ、ご著書『捏造の科学者』（文藝春秋、2014 年）で大宅賞・科学ジャーナリスト大賞を受賞されたことをご紹介します、研究会はスタートしました。

- ◆須田氏のご講義「STAP 細胞事件」と質疑応答

自己紹介の後、ご自身が取材し執筆された STAP 細胞事件について、経緯を振り返りながら、一体どういう事だったのか、どういう不祥事が起きたかという事、疑問が残る理化学研究所の対応について、実際の論文や写真、取材した事など詳細に、ご説明されました。（詳細については著書『捏造の科学者』をご覧ください。）

事件を起こした小保方さんの研究者としての基礎トレーニングが不十分であった経歴や、実験ノートの取り方、また実験データに真摯に向き合い自由に討論し仮説に固執しすぎず多面的に実験で証明するという当たり前のことができていなかった事を問題点として挙げられました。

事件の教訓として、極秘研究は捏造の温床になりやすい、政治的な思惑は研究の進め方や研究発表の公正さ

※無断転載・複写はご遠慮ください。

を損なう可能性がある、研究不正は大きな損失をもたらす（人・時間・お金・信頼）、不正を起こさないためには研究の動機が大切であることなど、多方面から考察されお話しされました。

ご講義後の質疑応答では、理化学研究所が研究チームリーダーとして小保方さんを迎えたことの問題点、実験ノートのこと、本事件前後の新聞社で変わったこと、ネット書き込みの恐ろしさジャーナリズムの対応など質問があり、活発に意見が交わされました。

◆酒井先生「科学者三原則」について

科学研究一般において倫理に関する意識を高めるために、絶対忘れてはいけないことを明文化する必要性から三原則を作成し研究会で検討している事、また今後研究の精神をきちんと次の世代の研究者に伝えるために三原則をセミナーなどで提言したいとお話しされました。

資料を基に三原則についてご説明され、出席者それぞれの立場からご意見をたくさんいただき、三原則に反映させることとなりました。

◆現場からの声「研究者の倫理についてどう考えるか」

直近 3 年の笹川科学研究助成制度の過去助成者にアンケートを行った結果、4 名の若手過去助成者にご出席いただきました。文系と理系の研究者が 2 名ずつで、実際の研究現場での研究者倫理の問題等を若手研究者の視点で発表していただきました。文系/理系、ジュニア/シニアで違う研究者倫理の問題点がある事、初期段階の倫理教育が大切だが研究倫理教育時間がない事、研究者になる時の動機の大切さ（好きな研究をしていたら不正をしようと思わないのではないか）、身内でアイデアの盗用が発生した時の難しさ、経験と併せて社会一般で考えられている倫理を知ることの大切さなど、若手研究者ならではのご意見を聞くことができました。

また、「科学者三原則」についてもご意見をいただきました。

◆須田氏からのご感想

本研究会について、文系・自然科学系の研究者が一堂に会して議論ができるというのはとても重要であり、アメリカでもまだそういうところは少なく、日本でももっと増えてゆくと学問がとても豊かになると思うとのご感想をいただきました。

◆金子先生のまとめ

須田氏のご講演、若手研究者の悩み、科学者三原則へのご意見など、宿題を与えられたという感じがし、新しい科学ジャーナリズムの倫理問題として、ネットでの炎上問題などの倫理も考えていかなければならないとご発言され、研究会は終了しました。

以上